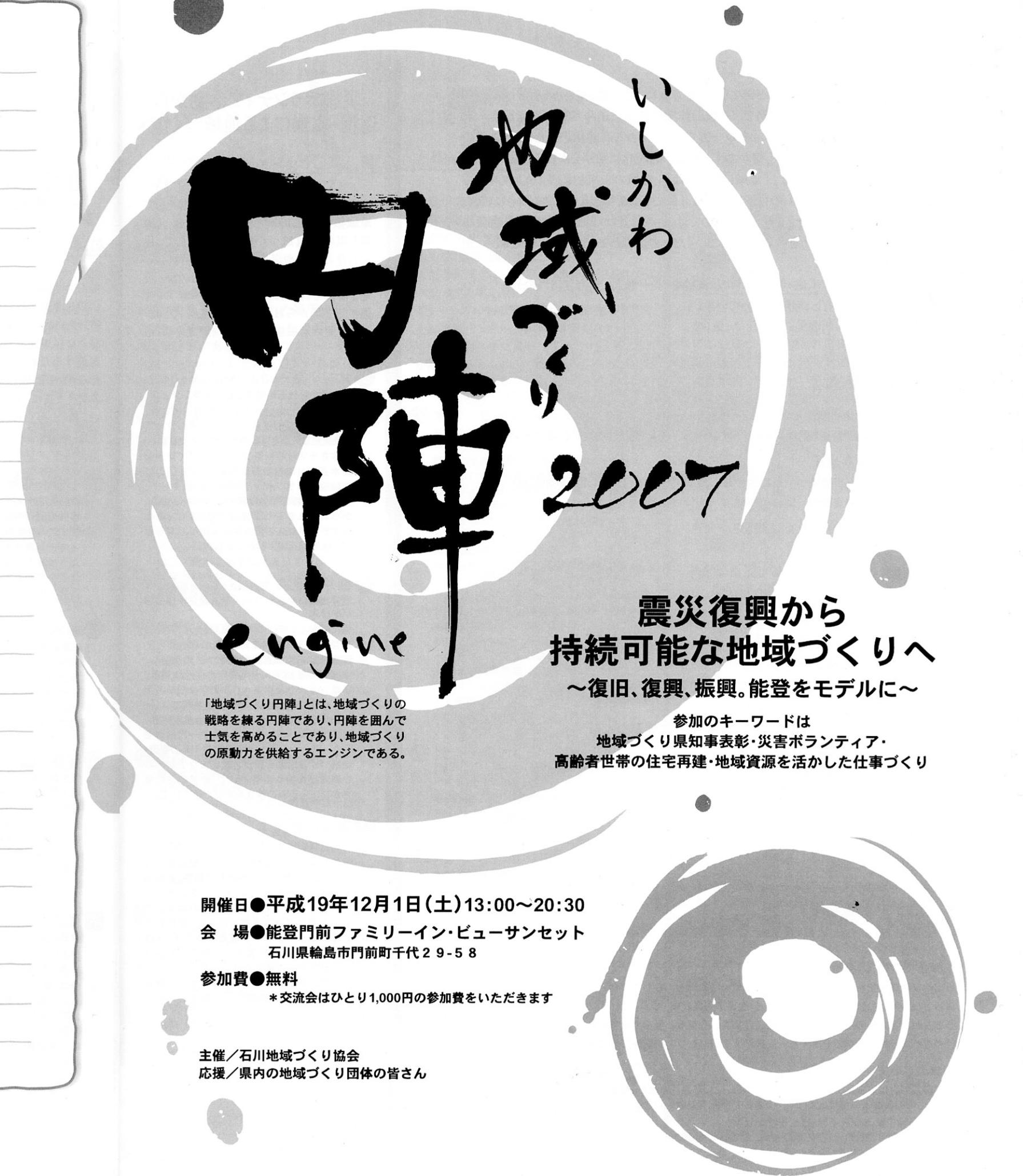


M E M O



「地域づくり円陣」とは、地域づくりの戦略を練る円陣であり、円陣を囲んで士気を高めることであり、地域づくりの原動力を供給するエンジンである。

震災復興から
持続可能な地域づくりへ
～復旧、復興、振興。能登をモデルに～

参加のキーワードは
地域づくり県知事表彰・災害ボランティア・
高齢者世帯の住宅再建・地域資源を活かした仕事づくり

開催日●平成19年12月1日(土)13:00~20:30

会 場●能登門前ファミリーイン・ビューサンセット
石川県輪島市門前町千代 29-58

参加費●無料

*交流会はひとり1,000円の参加費をいただきます

主催／石川地域づくり協会

応援／県内の地域づくり団体の皆さん

石川地域づくり協会事務局

〒920-8580金沢市鞍月1-1 石川県企画振興部地域振興課内
TEL.076-225-1312 FAX.076-225-1328
chiiki1@pref.ishikawa.lg.jp

開催趣旨

本年3月25日、「能登半島地震」が発生し、能登各地に大きな被害をもたらしました。地震から8ヶ月が経過したいま、幹線道路などの復旧作業は確実に進んでおり、観光関係のお客様も元の状態に戻りつつあります。その一方で、人口減少と高齢化が進む能登に、この地震が大きなダメージを与えたのも確かです。地震は過疎化に拍車をかけるかもしれません、同時に「地域に生きるとは」「地域に育つとは」「地域の未来とは」を、改めて考えさせる機会になりました。震災からの復興はもとより、「災い転じて福と成す」というように、新たな地域振興の活動を始めるときを迎えるのではないかでしょうか。災害対策、震災復興から真に持続可能な地域づくりを考え、実践していくための契機となるよう、「円陣」を組み、語り合いたいと思います。

地域づくり円陣2007の「シンポジウム」では議論をリレー形式でつなぎ、3つのテーマについて、参加者全員で共有し、理解を深めています。

《プログラム》

12:30 ▶ 受付開始

受付は「能登門前ファミリーイン・ビューサンセット」の別館「夕陽」で行います。

13:00 ▶ 開会挨拶

石川地域づくり協会会長 荒井 仁志（石川県企画振興部長）
来賓挨拶 輪島市副市長 大下 泰宏氏

13:10 ▶ 石川地域づくり表彰

表彰式
活動発表 雪だるま俱楽部 リサイクルネットワークin小松

14:00 ▶ 地域づくりシンポジウム

●第1セッション

「災害ボランティア活動から連携・協働による地域づくりへ」

●第2セッション

「住宅とコミュニティの再建を考える」

●第3セッション

「地域振興への道～半島での仕事づくり～」

●第4セッション

「総括セッション」

18:00 ▶ シンポジウム終了

「能登門前ファミリーイン・ビューサンセット」の本館に移動します。
宿泊予約者はチェックインをフロントで行ってください。

18:30 ▶ 交流会

会場はコンベンションホール「向日葵(ひまわり)」になります。

20:30 ▶ 交流会終了

交流会について(会費制)

参加希望者は会費1,000円と1,000円相当の地域特産物を持参してください。

アルコール類は会費に含まれていません。会場で販売します。

参加された皆さんの活動PRタイムを設けます。(会報など配布できます)

持参された地域特産物のPRタイムを設けます。(パンフなど配布できます)

宿泊について

宿泊希望の方は直接ホテルに申し込んでください。宿泊代金は1泊朝食で4,875円～14,850円です。
(部屋と宿泊者数で価格は変わります。電話で確認をお願いいたします)

能登門前ファミリーイン・ビューサンセット

石川県輪島市門前町千代29-58 TEL.0768-42-2050

<http://www12.ocn.ne.jp/~view-sun/>

1 災害ボランティア活動から連携・協働による地域づくりへ

第1セッション

地震発生直後の救援期から復興期そして地域振興へと、時間とともに変化していく課題と現場の地域づくりニーズに対して、住民自身の活動や災害ボランティア活動はどう形づくられ機能していったのか。現地と後方それぞれのボランティアセンターを担った立場からお話を伺うとともに、これからの復興や地域振興に向けた課題を探る。

北村 裕一さん (きたむら ゆういち)

日本赤十字社石川県支部防災ボランティア
昭和34年石川県金沢市生まれ。金沢市在住。民間企業勤務の傍ら、ナホトカ号の日本海重油流出事故から災害ボランティアに目覚め、日本赤十字社のボランティアとして東海豪雨水害や新潟福島豪雨水害、中越地震の際に現地ボランティアとして活動をした。今年3月の能登半島地震では、地震発生直後から現地入りをして救援活動を行い、その後は石川県災害対策本部に常駐しながら復興支援活動を精力的にこなした。

櫻井 定宗さん (さくらい さだひろ)

能登復興いやすかフォーラム設立準備会呼びかけ人
昭和43年石川県七尾市生まれ。七尾市在住。能登生國玉比古神社宮司、社会福祉法人本宮福祉会本宮保育園園長をつとめる傍ら、平成18年社団法人七尾青年会議所理事長、平成19年より社団法人日本青年会議所石川ブロック協議会会長。能登半島地震では、輪島市災害対策ボランティア現地本部副長、輪島市災害ボランティアセンター門前副センター長をつとめた。今後の能登半島の復興・地域づくり活動を担うさまざまな活動への中間支援を担う組織として、能登復興いやすかフォーラムの設立を呼びかけている。

谷内 博史 (やち ひろふみ)

七尾街づくりセンター株式会社事業部長
昭和46年広島市生まれ。七尾市能登島向田町在住。学生時代の阪神淡路大震災、日本海重油事故の発生時には、学生ボランティアセンターを立ち上げ、被災地へのボランティア派遣など後方支援を行った。関西でNPO政策シンクタンク職員勤務の後、平成15年より、石川県七尾市のTMO七尾街づくりセンターの常駐タウンマネージャーとして中心市街地活性化のまちづくりに取り組んでいる。石川地域づくり協会コーディネーター。

2 住宅とコミュニティの再建を考える

第2セッション

能登半島地震は、県内でも高齢化率の高い地域を襲った。住み慣れた場所で暮らし続けたいという高齢者世帯の住宅再建には、様々な課題がある。被災地でコミュニティを再建するためには、どんな工夫が必要なのだろうか。仮設住宅から本設住宅への住み替えと共に、イキイキとした暮らしをえていくため、神戸や中越に学びつつ、地域づくりの基礎となるコミュニティのあり方を探る。

石井 布紀子さん (いしい ふきこ)

有限会社コラボねっと取締役
阪神大震災の折、全国から集まったボランティアの受け皿として日夜ハードなコーディネート業務をこなし、震災後も長期にわたって膨大な事後処理を引き受けってきた。能登半島地震でも、やさしい眼差しで支援活動を展開された方。

鈴木 隆太さん (すずき りょうた)

中越復興市民会議よりそう事業コーディネーター
神戸で10年近く阪神淡路大震災の被災者支援に取り組んできた。中越地震の際に神戸から駆けつけ、現在は復興のために長岡市に住居を構えている。民間支援組織「中越復興市民会議」のスタッフとして活動中。

板谷 弘さん (いたや ひろし)

輪島市門前町深見区長
道下仮設住宅区長
輪島市門前町の深見地区は能登半島地震で生活道路が分断され孤立、板谷さんが住民を漁船で脱出させた。予定より早く、11月25日から立ち入り制限が解除され、深見地区住民38世帯86人は道下仮設住宅から自宅への引っ越し作業に追われている。

森山 奈美 (もりやま なみ)

株式会社御祓川代表取締役
都市計画コンサルタントとして、地域振興計画、道路計画などを担当。民間まちづくり会社(株)御祓川の設立に携わり、スタッフとして数々の事業をコーディネート。これまでに関わった川を中心としたまちづくりの取り組みが、日本水大賞国土交通大臣賞などを受賞。石川地域づくり協会コーディネーター。

3 地域振興への道～半島での仕事づくり～

第3セッション

能登半島地震からの復興だけでなく、地域全体の振興のためには、産業振興、仕事創出が不可欠である。既存の農林水産業や加工業、商業、観光業などの振興を図りつつ、新たな産業創出、仕事づくりが期待されている。地域の資源を活かした仕事づくりとしてツーリズムや特産品の開発・販売等を中心に議論をしたい。小さな規模でスタートしつつ、地域の中で従事する人が増えることが期待できる仕事、事業について考えたい。

木村 宏さん (きむら ひろし)

財団法人飯山市振興公社「なべくら高原・森の家」支配人
昭和36年東京都生れ。昭和59年日本大学文理学部ドイツ文学科卒、藤田観光グループのリゾート関連企業勤務。平成5年長野県飯山市斑尾高原にてベンション運営、アルペンポスト代表取締役。平成8年飯山市のグリーンツーリズム事業に参画、なべくら高原・森の家の開業準備に関わり、平成9年、同施設を開業。現在に至る。開業時には、あえて人材を公募し、地域外の若者をスタッフとして雇用。平成15年、NPO法人信越トレインクラブ設立、事務局。新潟県との県境80kmに信越トレインという歩くルートづくりをお客様参加で行う。最近は、森林セラピーの基地づくりにも取り組む。森の家では森歩きや農業体験、自然体験など多様なプログラムを実施。一方で地域の産物を販売する事業も。
<http://www.iyama-catv.ne.jp/~morinoie/>

濱 博一 (はま ひろかず)

株式会社アスリック代表取締役

七尾港フィシャーマンズワーフ能登食祭市場の構想開発・事業開発を担当。能登空港開港に伴う産業興し活動にも従事し、能登半島地域をはじめとし「地域活性化」をライフワークとしている。「石川新情報書府」「石川産業創出デジタルネット」など、各種起業政策・産業振興政策、IT関連政策やNPO支援政策など幅広い守備範囲を持ち、地域に根ざしたシンクタンクとして、政策立案から実施・人財育成に至るまで精力的に活動している。石川地域づくり協会コーディネーター。

赤須 治郎 (あかす じろう)

能登酒蔵復興市民基金代表・コピーライター
広告製作で培ったコミュニケーション技術を地域づくり活動に活かすことが得意分野。能登半島地震で被災した酒蔵を応援するため「能登のお酒を飲もう！」キャンペーンを地震直後から提唱し、全国各地で飲み会を開催中。地元産の茶葉をつかった「いしかわの紅茶」づくりにも取り組んでいる。その縁で「四十万紅茶」(高知県)づくりを指導し、その紅茶は同町の「道の駅とうわ」のヒット商品となっている。石川地域づくり協会コーディネーター。

4 総括セッション

第4セッション

第1セッションでは、災害時の自治活動と日頃の地域づくり活動との連絡をテーマに問題を整理し、第2セッションでは、高齢化が進む地域でのコミュニティ機能を損なわない住宅再建について議論し、第3セッションでは、復興のための若者定住と仕事づくりを話し合う。第4セッションでは、コーディネーターが参加者の代弁者となり、パネリストに質問しながら、一連の議論を振り返り、課題を整理する。地域づくり円陣での議論を、これから地域づくりに活かしていくための仕組みを考え、提言する。